障がい者サッカー HAND BOOK

©NPO法人日本ブラインドサッカー協会

障がい者サッカー HAND BOOK

サッカーを もっと みんなのものへ

JFA DREAM 夢がみらいつくる

公益財団法人日本サッカー協会

Football for All

サッカーを、もっとみんなのものへ。 JFAグラスルーツ宣言

年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも。
私たち日本サッカー協会は、サッカー、そしてスポーツの持つすばらしさを
もっともっと、たくさんのみなさんと分かち合い、育みたいと考えています。

だれもが、サッカーの楽しさに触れられるように！
サッカーとのすばらしい出会いやきっかけを、たくさんご用意します。

だれもが、サッカーをもっと身近に感じられるように！
自分のニーズや希望に合ったサッカーの選択肢を、次々と増やします。

だれもが、心からサッカーを楽しめるように！
安全に、安心してサッカーを楽しめる環境を、しっかりと整えます。

JFAグラスルーツ宣言 2014年5月15日

はじめに

日本サッカー協会（JFA）は、今まで組織的に障がい者サッカーに取り組んでいませんでした。障がい者スポーツが一般のスポーツと異なり、医療の面からとらえられて厚生労働省の管轄であったこと、また組織同士の関係が構築されていなかったこと等の要因で、向き合いにくい状況がありました。
そのような中で、スポーツ基本法に障がい者のスポーツ参加が言及されたこと、スポーツ庁の設置が決まり、文部科学省が障がい者スポーツも管轄するようになること、そして、2020東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、日本でパラリンピックが開催されるようになったことなど様々な社会的な変化がありました。
また、海外では既に、サッカー協会が障がい者サッカーに取り組む先進的な事例が存在していました。
一方、JFA が直接関わることはありませんでしたが、これまでも国内で様々な障がい者サッカーが楽しまれており、全国レベルで活動が行われていました。
JFA は 2014年5月に「JFA グラスルーツ宣言」を発表し、“サッカーをもっとみんなのものへ”、年齢、性別、障がい、人権などに関わりなく、誰もが、いつでも、どこでも、身近でサッカーにアクセスできる環境の整備に取り組むことを明言しました。
サッカーの持つすばらしさをもっともっと多くの人と分かち合い、育むために、2016年4月1日に設立された日本障がい者サッカー連盟と共に、7つの団体とのより良い関係を構築し、サッカーファミリーと共に障がい者サッカーを推進したいと考えています。
「サッカーなら、どんな障害も超えられる。」
サッカーを通じて、社会にある“障害”を超え、心豊かな社会を実現していきましょう！

☆障がい者サッカー☆ HAND BOOK

サッカーを もっと みんなのものへ

はじめに …… 01
00 02 日本障がい者サッカー連盟
01 04 アンプティサッカー（切断障がい）
02 08 CP サッカー（脳性麻痺）
03 12 ソーシャルフットボール（精神障がい）
04 16 知的障がい者サッカー
05 20 電動車椅子サッカー
06 24 ブラインドサッカー（視覚障がい）
07 28 ろう者（デフ）サッカー（聴覚障がい）
その他の情報 …… 32

サッカーを
もっと
みんなのものへ

00 日本障がい者サッカー連盟

JFAと障がい者サッカー団体を繋ぐ、中間支援組織です。

サッカーなら、どんな障害も越えられる。

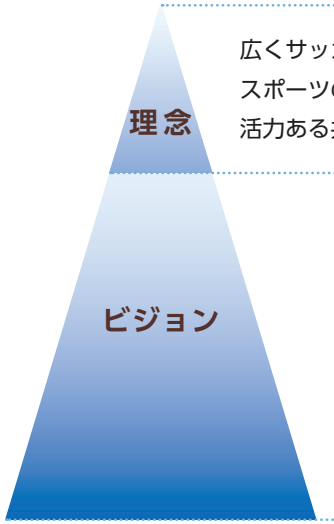
日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は7つの障がい者サッカー団体の集合体です。
日本サッカー協会（JFA）の加盟団体であり、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。

【機能・役割】
❶ JFAとの連携窓口
❷ 各団体の意見取りまとめ・調整
❸ 障がい者サッカー・スポーツの発展に向けた施策の企画・立案・実施
❹ 各団体の連携強化に向けた取り組みの実施

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation (JIFF)
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFA ハウス
TEL：**03-3818-2030**　FAX：**03-3830-7760**
Eメール：**jiff_staff01@jfa.or.jp**

■ 公式 WEB サイト
http://www.jiff.football

理念とビジョン



広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する。

【普 及】 障がい者サッカーの普及に努め、社会に根付いたものとなることで、誰でも、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を創りあげる。

【強 化】 障がい者サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

【組 織】 健全な組織の構築に努め、社会的責任を果たしていくことで、障がい者サッカーの価値を向上する。

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）の活動内容

	活動内容
❶ 相談窓口	障がい者サッカーに関する相談専用窓口 TEL：03-3818-2013（平日 13 時～17 時）
❷ ボランティアによるサポート	公益財団法人日本ケアフィット共育機構と業務提携し、障がい者サッカーの大会運営等をサポート
❸ 情報発信	JIFFの HP や JFA の情報発信ツール等を通じて随時障がい者サッカーの情報を発信
❹ JIFFパートナー制度	JIFFの理念や活動に共感いただいた企業と共に、サッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う社会を築いていくためのパートナー制度
❺ JIFF補助金制度	JIFFパートナーの協賛金や寄付等を原資とし、障がい者サッカー7団体の組織基盤強化や障がい者サッカーの強化・普及のための活動費用を補助する制度
❻ 普及・啓発イベント	① インクルーシブフットボールフェスタの開催 ・健常児と障がい児のまぜこぜチームでサッカーを楽しむ ・障がい者サッカー体験会 ② Warm Blue Day への参加 世界自閉症啓発デー（4/2）に合わせて開催される Warm Blue Day（障がい者やマイノリティの人達が安心して暮らせるまぜこぜの社会を目指す活動）に参加

01 アンプティサッカー（切断障がい）

上肢または下肢の切断障がいを持った人々のサッカーです。

アンプティサッカー（amputee soccer＝切断者サッカー）とは、主に上肢または下肢の切断障がいを持った人々により行われるサッカーです。

従来のような障がい者スポーツに必要とされた専用器具を必要とせず、日常の生活やリハビリ医療目的で使用しているクラッチ（主にロフストランドクラッチ）で競技を行うため、足や手に障がいを持つ人々にとっては最も気軽に楽しめるサッカーです。

経緯

1980年代にアメリカ人の切断障害者であるドン・ベネット氏が偶然ボールを蹴ることによりこの競技を思いつき、以降アメリカ軍負傷兵のリハビリの一環として採用されたことから一気に普及が進みました。特に経済的に恵まれない国々においても受け入れ易く、特に紛争の多い地域では四肢を欠損した兵士や民間人の身体的リハビリやメンタルヘルスケアにも一役買っています。現在、世界では40ヶ国以上に普及しています。

国内の普及

日本でのアンプティサッカーの歴史は比較的浅く、2008年に元アンプティサッカーブラジル代表の日系3世エンヒッキ・松茂良・ジアスが来日したことをきっかけに、普及活動が開始されました。その後、義肢装具士らの呼びかけのもと、日本初のアンプティサッカークラブFCガサルスが立ち上げられました。2009年には日本アンプティサッカー協会も設立されました。普及が始まったばかりで国内の競技人口は非常に少ない状況ではありましたが、2010年第8回ワールドカップアルゼンチン大会へ出場しました。

その後同年には神奈川・静岡を拠点とするTSA FCの設立を皮切りとして、2011年には九州地区、2012年には関西・中部地区、続く2013年には広島において中国地区初のチーム、川崎に、さらに2014年には北海道地区、千葉にチームが設立されました。2017年4月現在、日本には全国各地に9つのアンプティサッカーチームが活動しており、プレーヤーの数も90人を超えるほどになっています。

アンプティサッカーを知ろう！

ルール

【人 数】7人

【試合時間】25分ハーフ

【ピッチサイズ】国際基準 60m×40m

【ゴールサイズ】5m×2.15m（少年サッカー用ゴール）

【用 具】フィールドプレイヤーは2本のクラッチを使用してプレーします。これはアンプティサッカー専用の特別な器具ではなく、主にロフストランドクラッチと呼ばれる医療用補助器具を使用します。選手達にとってこのクラッチは腕と同じ扱い。プレー中このクラッチで故意にボールを触れると「ハンド」となります。クラッチを軸足にして振り子のように体を揺らしてパスやシュートを行います。

【その他】

クラッチ

- フィールドプレーヤーは移動のためにクラッチを使用するが、このクラッチをボール操作に使用することはできない。故意に触れた場合はハンドとなる。
- フィールドプレーヤーは転倒した状態でボールを蹴ることはできない。
- ゴールエリアなし、オフサイドなし、ゴールキーパー以外は自由交代
- スローインではなくキックインとなる。
- ゴールキーパーはペナルティエリアから出ることができない。

対象者

FP：下肢切断者もしくは下肢に障がいのある者

GK：上肢切断者もしくは上肢に障がいのある者

【クラス分け】なし

地域	支部	大会	支部	チーム	選手	大会
北海道		北海道		1	6	
東北	東日本	青森				
		岩手				
		宮城				
		秋田				
		山形				
		福島				
関東		茨城				
		栃木				
		群馬				
		埼玉		1	6	
		千葉		1	11	
		東京		1	20	
		神奈川		1	10	
		山梨				
北信越		長野				
		新潟				
		富山				
		石川				
		福井				
東海	西日本	静岡		1	10	
		愛知				
		三重				
		岐阜				
関西		滋賀				
		京都				
		大阪	○	1	15	
		兵庫				
		奈良				
		和歌山				
中国	九州	鳥取				
		島根				
		岡山				
		広島		1	11	
		山口				
四国		香川				
		徳島				
		愛媛				
		高知				
九州		福岡				
		佐賀				
		長崎				
		熊本				
		大分		1	11	
		宮崎				
		鹿児島				
		沖縄				

国際大会

■ アンプティサッカーワールドカップ

日本代表チームは2010年第8回ワールドカップアルゼンチン大会に初出場しました。続いて2012年ロシア大会、そして2014年に開催されたメキシコ大会では、予選グループE組を全勝で突破し、決勝トーナメントでは惜しくもアフリカの強豪アンゴラに0-1で敗れましたが、これまで出場したワールドカップ中では飛躍的な好成績をあげ、日本代表チームの目覚ましい成長に各国より大きな称賛を受けました。

■ AMPFUTBAL CUP 2017

第6回国際アンプティサッカートーナメント ポーランド大会

2017年6月にポーランド ワルシャワ市で開催された6カ国対抗戦にヨーロッパ以外のチームとして初めて招待され、グループリーグ2位、決勝トーナメントで優勝チームのイングランドに敗れましたが、3位決定戦でアイルランドを破り、第3位を獲得しました。また、大会MVPに日本代表チームの萱島比呂選手が選出され、チームの成績とともに日本のアンプティサッカーのレベルの高さを示すことができました。

国内大会

■ 日本アンプティサッカー選手権大会

国内に3チームが設立されたことを受け、2011年12月3日に日本で初めてとなる公式戦「第1回日本アンプティサッカー選手権大会」が川崎市フロンタウンさぎぬまで開催されました。FCガサルス、TSA FC、FC九州バイラオールの全3チームが参加し、総当り方式で大会が行われ、2勝をあげたFCガサルスが初代日本アンプティサッカー選手権大会チャンピオンの座に輝きました。2015年からは会場を富士通スタジアム川崎（川崎市）に移し、毎年秋に開催されています。

■ レオピン杯 copa amputee（2014～）

2014年に西日本での普及振興を目的に、大阪にて冠大会として開催されました。2016年の大会からは会場を花博記念公園鶴見緑地球技場に移し、毎年春に開催されています。

DATA		
競技人口	100	
指導者ライセンス制度	なし	
審判ライセンス制度	なし	
登録制度	あり	登録者：150名　登録チーム：9チーム

特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-4-3PCビル

Eメール：**support@j-afa.jp**

■ 公式WEBサイト

http://j-afa.jp

■ 公式Facebook

https://www.facebook.com/JapanAmputeeFootball

■ 公式ツイッター

https://twitter.com/jamputees

02 CPサッカー（脳性麻痺）

比較的軽度の脳性まひ選手がプレーできるように
考案された7人制サッカーです。

CPサッカー（脳性まひ者７人制サッカー）は、比較的軽度の脳性まひ選手がプレーできるように考案された7人制サッカーで、立った状態で行う脳性まひスポーツの中では唯一の団体競技です。フィールドが11人制サッカーより小さく、オフサイドがない、片手で下から投げるスローインが認められていること以外は、11人制サッカーとほぼ同じルールで行われます。

プレーヤーの障がいは人それぞれのため、お互いの障がいを理解したプレーが求められ、チームワークがとても重要なスポーツです。

脳性まひ者７人制サッカーを知ろう！

ルール

【人 数】7人

【試合時間】30分ハーフ

【ピッチサイズ】70m×50m

【その他】

● オフサイドなし

● スローインは、片手でボールを下から投げ入れてもよい。ただし、下から投げ入れる場合、ボールはすぐにグラウンドに接してなければならない。

● 再スタートのとき、対戦相手のチームの選手は、最低7mはボールから離れる。

対象者

脳性まひ、脳卒中、脳外傷など、何らかの原因による脳の損傷によって運動機能障がいがある者（両麻痺、片麻痺、四肢麻痺）で、自力で歩く、走ることができる者（杖の使用は不可）

【クラス分け】障がいのタイプ、程度により、４つのクラスに分類される。

FT5：両下肢に麻痺

FT6：四肢に麻痺

FT7：半身に麻痺

FT8：ごく軽度の麻痺

※ 試合中、常にFT5またはFT6の選手２人以上を出場させる。いない場合は、６人で試合をする。FT8の選手は最大１人までプレーできる。

CP サッカーは国際的なスポーツです。

IFCPF (International Federation of CP Football)
CPサッカーの国際大会は、IFCPFが統括しています。IFCPFは2015年1月1日に発足。1978年に設立された脳性麻痺、脳外傷、脳卒中のスポーツ選手のための国際的な統括団体・CPISRA (Cerebral Palsy International Sports and Recreation Association) から独立した統括団体です。

■ **IFCPF ホームページ：**
http://www.ifcpf.com

国際大会

1982年に、初の世界選手権大会が開催され、1984年のパラリンピック・ニューヨーク大会で、初めてパラリンピックの正式種目となりました。1988年のソウルパラリンピックから2016年リオパラリンピックまで、正式種目として、年々、競技国数は増え、競技レベルは向上しています。残念ながら、2020年東京パラリンピック種目からは外れてしまいましたが、現在は、2024年のパラリンピック種目への復活を目指しながら、「インターナショナルカップ」、「地域大会（ヨーロッパ選手権、全米選手権、アジア大会）」、「世界選手権」に加えて、U-19の世界選手権、大陸予選も開催されています。

■ **インターナショナルカップ**
■ **アジアパラ競技大会**
■ **世界選手権**

国内大会

■ **全日本選手権大会**

地域	支部 大会	支部 チーム	選手 大会
北海道	北海道		1
東北	青森		
	岩手		
	宮城		
	秋田		
	山形		
	福島		
関東	茨城		
	栃木		
	群馬		
	埼玉	1	13
	千葉		7
	東京	1	11
	神奈川	2	15
	山梨		
北信越	長野		
	新潟		2
	富山		1
	石川		
	福井		
東海	静岡		2
	愛知		5
	三重		2
	岐阜	1	2
関西	滋賀		1
	京都		1
	大阪	1	10
	兵庫	1	11
	奈良		
	和歌山		
中国	鳥取		
	島根		
	岡山		
	広島		1
	山口		
四国	香川		
	徳島		
	愛媛		
	高知		
九州	福岡		
	佐賀		
	長崎		
	熊本		
	大分		2
	宮崎		
	鹿児島		
	沖縄	1	5

DATA		
競技人口	約 200 名	
指導者ライセンス制度	なし	
審判ライセンス制度	なし	
登録制度	あり	登録者：92 名　登録チーム：8 チーム

一般社団法人日本CPサッカー協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 4 階
日本財団パラリンピックサポートセンター内
TEL：**03-6229-5436**　FAX：**03-6229-5420**
Eメール：**info@jcpfa.jp**

■ 公式 WEB サイト
http://jcpfa.jp/

■ 公式 Facebook
https://www.facebook.com/jcpfa

03 ソーシャルフットボール（精神障がい）

「ソーシャルフットボール」と呼ばれます。

「ソーシャルフットボール」の名称は、イタリアで行われているcalciosociale（英訳 social football）に由来します。
年齢・性別・人種・貧困・家庭環境・障がいなど、あらゆる違いを超えて社会連帯を目指したフットボール文化です。2011年に日本の精神障がい者フットサルチームが初の海外遠征をした際にcalciosocialeに触れ、その理念に敬意を表して協会名としました。現在はルールを一部修正したフットサルとして、各地で普及が進んでいます。

精神障がい者サッカーを知ろう！

ルール

基本的には国際サッカー連盟の競技規則に準拠するが、以下の特別ルールを採用している。

【その他】

- 競技形態はフットサル
- 女子選手を含む場合に限り、最大6人がコートに立つことができる。
- 女子が2人以上でも、最大6人で試合を行う。
- 試合時間、ピッチの広さは大会ごとに規定

対象者（全国大会参加資格）

1）以下の要件全てを満たし、スポーツマンシップに則って大会に参加できる者
2）精神疾患／精神障がいのため医療機関で継続的に治療を受けている者
3）WHOの国際診断基準「ICD-10精神および行動の障害」のうち、F2またはF3に該当する者を中心とするが、他の精神疾患 / 精神障がいも妨げない
4）毎年4月1日現在、13歳以上の精神障がい者で、以下㋐～㋒のいずれかを提示できる者
㋐ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条の規定により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者
㋑ 障害者自立支援法の自立支援医療制度を利用している者
㋒ 精神科を継続的に受診しており、主治医より通院証明書の発行が得られる者

【クラス分け】なし

これまでの経緯

「こころの病」に対するフットボールを用いた本格的な取り組みは、精神障がい者のフットサル大会という形で、2007年に大阪から始まりました。大阪での取り組みはたちまち全国に波及し、各地域のJリーグ加盟チームや地域のスポーツ団体などの協力を得ながら、精神疾患／精神障がいのある人々を対象とした種々のフットサルイベントが開催されるようになりました。精神医療機関や障がい者支援施設に拠点を置くチームだけではなく、医療機関や施設に関係なく地域単位で構成されたクラブチームなど、さまざまな形で活動が広がり、精神疾患／精神障がいのある人々を中心に構成されるチーム数は、全国で160を超えるに至っています。フットボールを通して、人との信頼関係を築き、自信を培い、夢や希望を実現する力を獲得できると考えます。精神障がい者のフットボールを推進して行くことでそれらを実現するため、日本ソーシャルフットボール協会を設立しました。

地域	支部	大会		支部	チーム	選手	大会
北海道		○	北海道		18	200	○
東北		○	青森		4	60	○
			岩手		2	20	○
			宮城		6	50	○
			秋田				
			山形		2	25	○
			福島				
関東		○	茨城		1	8	
			栃木		1	10	
			群馬		1	10	
			埼玉		10	120	○
			千葉		8	150	○
			東京		25	250	○
			神奈川		5	50	○
			山梨		3	33	○
北信越		○	長野		1	10	○
			新潟		1		
			富山				
			石川		1	10	
			福井				
東海		○	静岡		2	21	○
			愛知		13	110	○
			三重		2	31	○
			岐阜		1	6	
関西		○	滋賀		1		
			京都		2	50	○
			大阪	○	17	300	○
			兵庫		5	70	○
			奈良		1	12	○
			和歌山				
中国		○	鳥取		2	30	
			島根				
			岡山		1	15	
			広島		1		
			山口				
四国		○	香川		1	15	
			徳島		1	17	○
			愛媛		1	20	○
			高知		1	13	○
九州		○	福岡		6	70	○
			佐賀		1	12	○
			長崎		2	25	○
			熊本		5	45	○
			大分				
			宮崎				
			鹿児島		1	10	
			沖縄		1	10	

国際的な取り組みの実現に向けて

2013年10月に、ここ日本で第１回精神障がい者スポーツ国際シンポジウム・会議が開催され、日本を含む、精神障がい者スポーツを推進する世界８カ国が一堂に会しました。参加国を対象にした調査結果によれば、８か国すべてにおいて実施されたスポーツはサッカー(フットボール)でした。このため、精神障がい者スポーツの国際化のモデルとしてサッカー（フットボール）を推進し、国際親善大会の開催に向け、各国がそれぞれ努力することで合意し、精神障がい者スポーツの国際化が始まりつつあります。

国際大会

2016年２月26～28日、大阪のJ-GREEN堺にて、第１回ソーシャルフットボール国際大会が開催されました。日本・イタリア・ペルーの代表チームと大阪選抜の４チームが出場し、日本代表が初代チャンピオンに輝きました。

国内大会

北海道チャンピオンズカップ・IF リーグ・バリアフリーフットサルフェスティバル・道東フットサル交流会（北海道）**・カラーズカップ・津軽地域精神障がい者フットサル交流会**（青森）**・レガーメカップ**（岩手）**・東北北海道大会・千葉コルツァカップ**（千葉）**・Ｓリーグ**（埼玉）**・横浜ＦＣヨコハマぽるとカップ**（神奈川）**・関東大会・ガンバ大阪スカンビオカップ**（大阪）**・関西大会、伏見龍馬カップ**（京都）**・九州・四国スカンビオカップ　など**

DATA	
競技人口	約 2,000 名
指導者ライセンス制度	なし
審判ライセンス制度	なし
登録制度	あり

特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター メールボックス No.66
Eメール : **info@jsfa-official.jp**

■ 公式 WEB サイト
http://jsfa-official.jp/

■ 公式ブログ
http://ameblo.jp/jsfa-infomation/

04 知的障がい者サッカー

知的障がい者がプレーするサッカーです。

知的障がい者がプレーするサッカーです。
日本国内においては約5,500名のプレイヤーがおり、それぞれの力量により楽しんでいます。
ルールは皆さんがご存知のFIFAサッカールールと全く同じですが、発達障がいの程度により試合時間が30分ハーフになったりします。国際試合などは45分ハーフで戦います。激しい攻防やスピードに乗ったドリブルなど見どころはたくさんあります。
知的障がい者は「ひたむき」なサッカーをします。

いわゆる汚いプレーがほとんどなく、心洗われる爽やかさがあるサッカーです。
ぜひ一度ご覧になってみてください。

知的障がい者サッカーを知ろう！

ルール

【人 数】 11人

【試合時間】 国際試合は45分ハーフ

【ピッチサイズ】 一般的なサイズと同じ

【その他】 競技そのものは皆さんが楽しんでいるサッカーと何ら変わりません。コミュニケーションや戦術理解、判断力などの指導に工夫が必要です。

対象者

知的障がい者

【クラス分け】 なし

特徴

全国に特別支援学校・学級網が発達していること、サッカーの面では国体の後に開催される全国障害者スポーツ大会の競技種目となっていることから、全国に広く発達している競技です。国体を契機に取り組みが開始する都道府県も少なくありません。

INAS（アイナス）国際知的障害者スポーツ連盟

知的障がい者がすべてのレベル（競技からレクリエーションまで様々な段階）のスポーツ活動に参加する権利を保障すること、およびスポーツによる知的障がい者自身の成長と地域社会との交流（社会参加推進）の促進を目的として、1986年にオランダで設立されました。2000年の時点で、正式加盟国は60の国と地域、準加盟国は26の国と地域におよぶ、知的障がい者のスポーツ振興、講習会やセミナーの開催、国際競技規則の確立、記録の管理、知的障がい者の社会参加推進などさまざまな活動に努めています。

■ INAS ホームページ：
http://www.inas.org

国際大会「もうひとつのワールドカップ」

INASサッカー世界選手権大会が、1994年にオランダで初めて開催され、オリンピックとパラリンピックのように、FIFAワールドカップ開催年に同じ開催国で行われる、4年に1度の祭典となっています。この世界選手権を「もう一つのワールドカップ」と呼んでいます。2002年には日本開催。昨年2014年にはブラジル大会に出場し、初のベスト4という好成績をおさめました。

国内大会

- ■ 全日本選手権
- ■ 地域トレセン対抗戦
- ■ 高校生年代の選手権

地域	支部	大会		支部	チーム	選手		大会
北海道	○	○	北海道	○	22	444		
東北	○	○	青森		2			
			岩手	○		26		
			宮城		2			
			秋田	○		124		
			山形					
			福島		4	79		
関東	○	○	茨城	○	23	400	○	県内大会、支援学校大会
			栃木		1	26	○	サッカースクール
			群馬		5	110		
			埼玉		20	350	○	県内大会
			千葉	○	10	118	○	県内大会、県内交流大会、支援学校大会
			東京	○	20	455	○	都内大会、支援学校大会、フットサル大会、サッカー教室、もうひとつの選手権予選
			神奈川	○	29	442	○	県内大会、県内交流大会、支援学校大会、横浜市大会
			山梨		1	20		
北信越			長野					
			新潟					
			富山					
			石川					
			福井					
東海	○	○	静岡	○	8	600	○	高校生年代の選手権（全国規模）、交流大会（全国規模）
			愛知	○	6	355		
			三重	○		194		
			岐阜	○		130	○	全日本選手権（全国規模）
関西	○	○	滋賀		3	63		
			京都		1	50		
			大阪	○	1	420	○	地域トレセン対抗戦（全国規模）
			兵庫	○	4	500		
			奈良	○	1	31		
			和歌山	○	1	31		
中国	○	○	鳥取					
			島根	○	7	82	○	総合大会
			岡山					
			広島	○	2	51	○	精神障害者との交流大会
			山口	○	3	45	○	西日本大会、交流大会
四国	○		香川					
			徳島					
			愛媛			40		
			高知					
九州	○	○	福岡	○	3	75		
			佐賀					
			長崎	○	5	62	○	県内大会
			熊本	○	1	33	○	
			大分	○	2	53		
			宮崎					
			鹿児島	○	1	200		
			沖縄	○	1	25		

DATA	
競技人口	5,634 名
指導者ライセンス制度	なし
審判ライセンス制度	なし
登録制度	なし

日本知的障がい者サッカー連盟

〒179-0072 東京都練馬区光が丘 2-7-3
Eメール：**info@jffid.com**

■ 公式 WEB サイト
http://jffid.com/

■ 公式 Facebook
https://www.facebook.com/jffid

■ 公式ツイッター
https://twitter.com/jffid_official

■ Youtube 公式チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UC8PduiGH3BJl6krDTE-wb3A

05 電動車椅子サッカー

電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。

電動車椅子サッカーとは、電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。自立した歩行ができないなど比較的重度の障害を持った選手が多く、ジョイスティック型のコントローラーを手や顎などで操りプレーします。性別による区分はなく、男女混合のチームで行います。

国際的な呼称は「Powerchair Football」となっており、スピードは時速10km以下と定められています。直径約32.5cmのボールを使用、繊細な操作で繰り広げられるパスやドリブル、回転シュートなど華麗かつ迫力あるプレーが魅力です。

電動車椅子サッカーを知ろう！

ルール

【人 数】4人（男女混合、ゴールキーパーを含む）

【試合時間】20分ハーフ

【ピッチサイズ】14～18m×25～30m（主にバスケットコートを使用）

【ゴールサイズ】2本のゴールポストからなり6m（2本のポストの間）

【用 具】

ボール：直径32.5cm

電動車椅子：最高速度10km/h以下

※ 国内は最高速度6km/h以下

【その他】サッカーと大きく異なるルールは「3パーソン（ペナルティエリアにディフェンスが3人以上入ってはいけない）」と「2 on 1（ボールに対して半径3m以内に各チーム1人しかプレーに関与してはいけない）」の2点があります。

対象者

電動車椅子を操作できる方は、どなたでもプレーできます。

※ 公式試合に出場するには、5歳以上で要障害者手帳（日本国内のみ）

【クラス分け】

主に姿勢保持や視野確保、運転技能等を判断基準とし、国際大会のみPF1とPF2に区分される（「FIPFA Classification Rulebook」による）。

PF1：パフォーマンス全体に影響する相当重度な身体的障がいを持つ選手

PF2：パフォーマンス全体に影響する身体障がいは穏やかで中程度ながら、適格基準を最低限満たしている選手

※ 試合中一度にフィールド上でプレーできるPF2選手は最大2名まで

特徴

電動車椅子サッカー（Powerchair Football：国際的呼称）は、電動車椅子を使用したサッカー競技で、「足で蹴らないサッカー」です。選手たちの多くは自立した歩行ができない障がいをもっており、中には上体や首の保持ができないほど重度の障がいを持つ選手もいます。しかし、残された機能「手・足・口・顎」を使ってジョイスティック型のコントローラーを巧みに操作し、車椅子と一体となりプレーをします。電動車椅子の操作ができる方なら、老若男女問わずに誰にでも興奮と満足感を味わうことができるスポーツです。男性・女性の区分はありませんが、車椅子同士が激しく競い合い、ボールを奪い合う迫力・そして展開の早いゲーム進行と、大変見応えがあります。

地域		支部	大会	チーム	選手	大会
北海道	北海道	○	○	1	4	
東北	青森					
	岩手					
	宮城	△				
	秋田					
	山形					
	福島					
関東	茨城	○		1	6	
	栃木					
	群馬					
	埼玉	○	○	1	8	
	千葉	○	○	2	11	
	東京	○	○	5	31	
	神奈川	○	○	5	31	
	山梨					
北信越	長野	○	○	2	24	
	新潟					
	富山					
	石川	○	○	1	6	
	福井					
東海	静岡	○	○	1	5	
	愛知	○	○	1	7	
	三重	○		1	5	
	岐阜	○		1	5	
関西	滋賀	○		1	9	
	京都	○	○	1	7	
	大阪	○	○	2	12	
	兵庫	○	○	3	25	
	奈良	○		2	13	
	和歌山					
中国	鳥取					
	島根	△				
	岡山	△	○			
	広島	○	○	4	25	
	山口					
四国	香川	○		1	5	
	徳島					
	愛媛					
	高知	○		1	5	
九州	福岡		△			
	佐賀	○	△	1	8	
	長崎					
	熊本					
	大分					
	宮崎					
	鹿児島	○	△	1	6	
	沖縄					

日本での活動

日本での本格的な活動は、1982年に大阪市身体障がい者スポーツセンターに勤務していた山下氏（現協会名誉顧問）によって、カナダなどで行われていたパワーサッカーをヒントに考案されたのが始まりです。
2017年度には39チーム・会員541名（うち選手会員258名）が日本電動車椅子サッカー協会に登録し、全国各地域の都道府県協会に組織化されています。
各地域での独自の大会のほか、電動車椅子の最高速度6km/hまでとする「日本電動車椅子サッカー選手権大会」や、最高速度10km/hまでとする「日本パワーチェアーフットボール選手権大会」などの大会が毎年定期的に行なわれています。

国際大会

■ FIPFA ワールドカップ
■ FIPFA ASIA PACIFIC OCEANIA ZONE Powerchair Football Championship

国際大会参加歴

■ 2007年 第1回 FIPFA ワールドカップ東京大会 4位
■ 2011年 第2回 FIPFA ワールドカップフランス大会 5位
■ 2013年 アジア太平洋オセアニア選手権優勝
■ 2017年 第3回 FIPFA ワールドカップフロリダ大会（2017年7月開催）

国内大会

■ 日本電動車椅子サッカー選手権大会
■ 日本パワーチェアーフットボール選手権大会（新設）

DATA		
競技人口	約 500 名	
指導者ライセンス制度	あり	
審判ライセンス制度	あり	審判員：110 名　審判指導員：15 名
登録制度	あり	登録者：541 名　登録チーム：39 チーム

一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
〒107-0062 東京都港区南青山 2-5-17 ポーラ青山ビル 6 F
株式会社ジェイワールドトラベル内
TEL：**03-3402-3600**　FAX：**03-3402-9698**
Eメール：**contact@jewfa.jp**

■ 公式 WEB サイト
http://www.web-jpfa.jp/

■ 公式 Facebook
https://www.facebook.com/JPFA.PowerchairFootball/

■ 公式ツイッター
https://twitter.com/JPFA_official

■ Youtube 公式チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCg8QfVFSooOeZCKk20o_CTg

06 ブラインドサッカー（視覚障がい）

ブラインドサッカーとロービジョンフットサルがあります。

ブラインドサッカー（全盲クラス：B1）

ブラインドサッカーは、アイマスクをつけてボールの音と声のコミュニケーションで行なう５人制サッカーです。情報の８割を得ているという視覚を閉じた状態でプレーします。ピッチはフットサルコートと同じ大きさで、両サイドライン上に高さ1mほどのフェンスが並びます。４名のフィールドプレーヤー（FP）、ゴールキーパー（GK）、監督、ガイド（コーラー）の７名で行い、転がると音が出る特別なボールの使用、ガイドがゴールの後ろにいて位置を教える、ボールを持った相手に向かって行く時に「ボイ！」と声を出すなど、ルールが工夫されています。

ブラインドサッカー（全盲クラス）を知ろう！

ルール

【人 数】５人
スタッフ２人（監督１人／ガイド１人）
【試合時間】20分ハーフ（プレイングタイム）
【ピッチサイズ】40m×20m
【その他】

● 目の見える人の協力
・ キーパーは見える人（晴眼者または弱視者）、フィールドプレーヤー４人はアイマスクをした状態で行います。
・ ゴールの後ろにガイド（案内役）がいて、ゴールの位置（距離、角度）などを伝えます。
・「8、45、シュート！」と言っていたら、それは（距離）8m、（角度）45度、（今のタイミングで）シュート！の意味です。

● 音の出るボール
・ ボールは転がすと「シャカシャカ」と音が出る特殊な構造で、ボールの音とまわりの声を頼りにしながらゴールを目指します。
・サイドラインには腰の高さのサイドフェンスがあります。

●「ボイ（Voy）」スペイン語で「行く」
・ディフェンスは、ボールを取りに行く時自分の位置を知らせるための「ボイ！」という声を出さなければいけません。

対象者

FP：全盲
（国内大会では弱視者、晴眼者も可）
GK：弱視者または晴眼者
【クラス分け】B1：全盲から光覚まで

ロービジョンフットサル（弱視クラス B2/3）

ロービジョンフットサルは、弱視者が弱視状態のまま、フットサルとほぼ変わらないルールでプレーします。４名のフィールドプレーヤー（FP）、ゴールキーパー（GK）の５人で行い、フィールドプレーヤー４人のうち最低２名はより見えにくいB2クラスの選手がいなければなりません。B3クラスの選手は腕章を装着します。アイマスクは装着せず、ボールも音が出ない通常のフットサルボールを用います。一般的に「目が悪い」というと視力が弱い状態を想像しますが、見えにくさそれぞれが異なり、ぼやけ、欠け、にごりなどの症状があり、さらにそれらが掛け合わされて多様な見えにくさがある状態でプレーをします。

ロービジョンフットサル（弱視クラス）を知ろう！

ルール

【人 数】５人
【試合時間】20分ハーフ
【ピッチサイズ】40m×20m

対象者

FP：弱視者（国内大会では大会により晴眼者も可）
GK：弱視者または晴眼者
【クラス分け】
B2：矯正後の診断で、視力0.03まで、ないし、視野５度まで
B3：矯正後の診断で、視力0.1まで、ないし、視野20度まで
● B2のプレーヤーが２人以上ピッチ上
● B3のプレーヤーは右腕に赤いバンド装着

通常の見え方

ぼやけた見え方

視野が欠けた見え方

黄色くにごった見え方

地域	支部	大会		支部	チーム	選手	大会	
北海道	北日本リーグ	○	北海道		1		○	
東北		○	青森					
			岩手					
			宮城	△	1		○	直轄組織ではない
			秋田					
			山形					
			福島					
北信越		○	長野	△	1		○	直轄組織ではない
			新潟	△	1		○	直轄組織ではない
			富山					
			石川					
			福井					
関東	東日本リーグ	○	茨城		3		○	
			栃木					
			群馬					
			埼玉		1		○	
			千葉					
			東京		5		○	
			神奈川		1			
			山梨	△	1		○	直轄組織ではない
東海	中日本リーグ		静岡					
			岐阜					
			三重					
			愛知					
関西	西日本リーグ	○	滋賀					
			京都					
			大阪	△	1		○	直轄組織ではない
			兵庫	△	2		○	直轄組織ではない
			奈良					
			和歌山					
中国		○	鳥取					
			島根					
			岡山		1			
			広島		1			
			山口					
四国			香川					
			徳島					
			愛媛					
			高知					
九州		○	福岡	△	2		○	直轄組織ではない
			佐賀					
			長崎	△				直轄組織ではない
			熊本					
			大分					
			宮崎					
			鹿児島					
			沖縄					

国際大会

- ■ ブラインドサッカー世界選手権（4年に1度）
- ■ ブラインドサッカーアジア選手権（2年に1度）
- ■ パラリンピック（4年に1度、オリンピック直後）
- ■ アジアパラ競技大会
- ■ IBSA ワールドゲームズ

国内大会

国内には、全国からチームが集まり頂点を決める日本選手権の他、４つの地域リーグ（北日本、東日本、中日本、西日本）と、地域リーグで勝ち抜いたチームによるクラブチーム選手権があります。

ブラインドサッカー（B1）

- ■ 各地域リーグ（8～12月）
- ■ 日本選手権（6～7月）
- ■ クラブチーム選手権（3月）

ロービジョンフットサル（B2/3）

- ■ 各地域リーグ（8～12月）
- ■ 日本選手権（時期未定）

DATA			
競技人口	約 450 名		
指導者ライセンス制度	あり	指導者：66 名　指導者インストラクター：5 名	
審判ライセンス制度	あり	審判員：33 名　審判インストラクター：3 名	
登録制度	あり	登録チーム	ブラインドサッカー：19 チーム ロービジョンフットサル：3 チーム

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-23-7 新宿酒販会館 2F
TEL：**03-6908-8907**　FAX：**03-6908-8908**
Eメール：**info@b-soccer.jp**

■ 公式 WEB サイト
http://www.b-soccer.jp/

■ 公式 Facebook
https://www.facebook.com/Blind.Football

■ 公式ツイッター
https://twitter.com/jbfa_b_soccer

07 ろう者(デフ)サッカー（聴覚障がい）

ろう者(デフ)サッカー、ろう者(デフ)フットサルがあります。

ろう者（デフ）サッカー

「デフ」とは英語で「deaf（聞こえない人、聞こえにくい人）」という意味で、ろう者（デフ）サッカーとは、聴覚障がい者のサッカーであり、競技中は補聴器を外すことが義務付けられていることから「音のないサッカー」の愛称で呼ばれています。ピッチ上ではアイコンタクトや手話でコミュニケーションを取っています。

ろう者（デフ）サッカーを知ろう！

ルール

【人 数】11人

【試合時間】45分

【ピッチサイズ】フルコート

【特 徴】基本は健常者のルールと同じです。
1点だけ主審は笛とフラッグ両方使用します（笛の音が聞こえないため）。
国際試合ではさらに両ゴール裏に1人ずつ。合計5人のフラッグを持った審判員が、プレーの停止を多方向から伝えます。

対象者

聴覚障がい者

ただし、日本と国際ルールで基準が異なる。日本は最も軽い6級で両耳の聴力レベルが70dB以上、一側耳の聴力レベルが90dB以上、他側耳の聴力レベルが50dB以上と定められている。一方、国際ろう者スポーツ委員会は聞こえが良い方の耳の聴力が55dB以上とされている。

【クラス分け】なし

ろう者（デフ）フットサル

ろう者（デフ）フットサルとは、聴覚障がい者のフットサルであり、競技中は補聴器を外すことが義務付けられています。ピッチ上ではアイコンタクトや手話でコミュニケーションを取っています。

ろう者（デフ）フットサルを知ろう！

ルール

【人 数】5人

【試合時間】25分ランニングタイムもしくは20分プレーイングタイム

【ピッチサイズ】フルコート

【その他】基本は健常者のルールと同じです。
主審は笛とフラッグ両方使用します（笛の音が聞こえないため）。

対象者

聴覚障がい者

ただし、日本と国際ルールで基準が異なる。日本は最も軽い6級で両耳の聴力レベルが70dB以上、一側耳の聴力レベルが90dB以上、他側耳の聴力レベルが50dB以上と定められている。一方、国際ろう者スポーツ委員会は聞こえが良い方の耳の聴力が55dB以上とされている。

【クラス分け】なし

国際大会

- アジア太平洋ろう者フットサル選手権大会
- アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会
- アジア太平洋ろう者競技大会（サッカー、フットサル）
- 世界ろう者フットサル選手権大会
- 世界ろう者サッカー選手権大会
- 夏季デフリンピック（サッカー）

国内大会

- 全国ろうあ者体育大会（サッカー）
- 全日本ろう者サッカー選手権大会
- 全日本ろう者フットサル選手権大会

地域	支部	大会		支部	チーム	選手	大会	
北海道	○		北海道	○	1	20	○	
東北			青森					
			岩手					
			宮城			1		
			秋田			1		
			山形					
			福島					
関東			茨城		1	15		
			栃木					
			群馬					
	東日本	○	埼玉		1	16		
			千葉			8		
			東京	○	1	26	○	EJDFA デフリーグ（サッカー / 年1回開催）
			神奈川		1	22		
			山梨					
北信越			長野					
			新潟		1	21		
			富山					
			石川					
			福井			1		
東海			静岡		1	10		
			愛知		1	20		
			三重					
			岐阜					
関西			滋賀					
	西日本	○	京都					
			大阪		1	25	○	近畿ろうあ者体育大会
			兵庫					
			奈良					
			和歌山					
中国			鳥取					
			島根			1		
			岡山			1		
			広島			2		
			山口					
四国			香川					
			徳島					
			愛媛					
	九州	○	高知					
九州			福岡		1	18	○	私設フットサル杯（2 回 / 年）
			佐賀			1		
			長崎					
			熊本			3		
			大分			2		
			宮崎			1		
			鹿児島			2		チームは九州チーム
			沖縄			1		

DATA		
競技人口	約 200 名	
指導者ライセンス制度	なし	
審判ライセンス制度	なし	
登録制度	あり	登録者：182 名　登録チーム：22 チーム

一般社団法人日本ろう者サッカー協会

〒140-0013 東京都品川区南大井 4-6-5

Eメール：**jdfa@jdfa.jp**

■ 公式 WEB サイト

http://jdfa.jp/

■ 公式 Facebook

https://www.facebook.com/jdfa.soccer

■ 公式ツイッター

https://twitter.com/ JDFA_official

その他の情報

公益財団法人
日本障がい者スポーツ協会

昭和39年の東京パラリンピックを契機に、わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織として設立されました。平成10年の長野冬季パラリンピックを契機に、身体、知的、精神の三障がいすべてのスポーツ振興を統括する組織として、「日本障がい者スポーツ協会」に改称、内部に日本パラリンピック委員会を設置し、選手の育成・強化および障がい者スポーツ指導員の養成事業を行っています。

全国障害者スポーツ大会

主催：文部科学省・（公財）日本障がい者スポーツ協会・開催地主催者

全国障害者スポーツ大会は、1965年から身体障がいのある人々を対象に行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、1992年から知的障がいのある人々を対象に行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、2001年から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われています。大会の目的は、パラリンピックなどの競技スポーツとは異なり、障がいのある人々の社会参加の推進や、国民の障がいのある人々に対する理解を深めることにあります。

サッカーに関しては、知的障がい者サッカーが種目となっています。最近のオープン競技としては以下の実績があります。

- 2012年　岐阜　CP
- 2013年　東京　精神
- 2017年　愛媛　CP

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6
ユニゾ水天宮ビル（旧常和水天宮ビル）3階

［総務部・企画情報部・強化部］［JPC］
TEL：**03-5695-7021**　FAX：**03-5641-1213**
Eメール：**jpc99@jsad.or.jp**

［スポーツ推進部］
TEL：**03-5695-5420**　FAX：**03-5641-1213**
Eメール：**touroku127@jsad.or.jp**

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、
さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ	スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト	選手にとっての最善を考えること
フェア	オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ	成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト	関わりのあるすべてを大切に思うこと

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために

サッカーに暴力も暴言もいらない！

自分を成長させてくれた、大好きなサッカーだから
誰にもきらいになってほしくない！

公益財団法人 日本サッカー協会

For GAMES
ゲーム
常に全力でゴールをめざす。
勝利をめざす。
それがサッカーという
僕が大好きなゲームに対する
リスペクト。

For REFEREES
レフェリー
子どもたちもひとりひとりりっぱな選手。
しっかり目を見て握手する。
いいゲームをしようね。

For PLAYERS
選 手
サッカーには敵はいない。
対戦相手は敵じゃない。
自分たちの力をためし、
サッカーを楽しむための大切な仲間。
試合のはじめに相手の目を見て
しっかりと握手する。
リスペクトの証(あかし)として。

リスペクト

大好きなサッカーを
もっと楽しむために、
互いを「大切に思うこと」。
「フェアで強い」
日本サッカーを目指して。

日本サッカー協会、Jリーグは、
リスペクト・プロジェクトを
推進しています。

For COACHES
コーチ
子どもたちに会う前には、
いつも自分を振り返る。
子どもたちは大切な相手。
ちゃんとしていないとはずかしい。
スマイルOK！

For SUPPORTERS
サポーター
コーチはコーチに任せる。
レフェリーはレフェリーに任せる。
プレーは子どもたちに任せる。
私たちは応援し、見守る。

大切に思うこと

— RESPECT PROJECT —

公益財団法人 日本サッカー協会の公式ホームページ
http://www.jfa.jp/
公益財団法人 日本サッカー協会
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷 3-10-15）JFAハウス
TEL.03・3830・2004 FAX.03・3830・2005
公益社団法人Jリーグの公式ホームページ
http://www.jleague.jp/
公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷 3-10-15）JFAハウス9階
TEL.03・3830・2006 FAX.03・3830・2007

発　行

公益財団法人 日本サッカー協会

編　集

公益財団法人 日本サッカー協会 グラスルーツ推進部

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

編集協力・写真提供

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会

一般社団法人 日本CPサッカー協会

特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会

日本知的障がい者サッカー連盟

一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会

制作協力

ピーチ アンド ダムズン

● 本紙掲載のレポート、写真、図表などの無断転載を禁じます。

● 発行日：2017年12月

※掲載しているデータは2017年現在のものです。

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていくきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。

切断障がい　脳性麻痺　精神障がい　知的障がい

電動車椅子　視覚障がい　聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティーサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフストランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う 11 人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral（脳からの）Palsy（麻痺）の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う 5 人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004 年からパラリンピックの正式種目です。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

［公式ユニフォームサプライヤー］　［パートナー］

電動車椅子サッカー

アンプティサッカー

ブラインドサッカー

CPサッカー

ろう者（デフ）サッカー

ソーシャルフットボール

知的障がい者サッカー

☆障がい者サッカー HAND BOOK

サッカーを
もっと
みんなのものへ

公益財団法人日本サッカー協会
グラスルーツ推進部

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFA ハウス
TEL.050-2018-1990（代表）
http://www.jfa.jp/

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFA ハウス
TEL.03-3818-2030
http://www.jiff.football

● 障がい者サッカーに関する相談窓口
03-3818-2031（平日13:00～17:00）